Latin America and the Caribbean Regional FIRST Workshop 2026

【経緯／目的】

経済産業省は、米国務省が主導する小型モジュール炉（SMR）技術の責任ある利用のための基礎インフラ（FIRST）プログラムを支援している。同プログラムは、原子力産業及び技術革新を活用し、原子力エネルギー分野、特に SMR 技術への新規参入を目指す国々を支援し、世界のエネルギー安全保障の向上を図ることを目的とする。

【実施内容】

米国務省は、2026 年 6 月 2～4 日にアルゼンチンのブエノスアイレスにおいて、SMR の非電力的利用及び原子力分野における AI 活用への理解を深めることを目的として、FIRST Workshop を開催した。本会議には、アルゼンチン、チリ、コスタリカ、ドミニカ共和国、エクアドル、エルサルバドル、ジャマイカ、メキシコ、パラグアイ及びペルーの 10 か国から 50 名以上が参加し、また米国、カナダ、英国及び日本からは政府機関及び原子力関係機関等から 30 名以上が参加した。海外産業人材育成協会（AOTS）の協力の下、JICC から 1 名が参加し、SMR を用いた海水淡水化、発電及び水素製造に関する講演を行い、日本の技術と知見を紹介した。

【成果】

日本の FIRST 会議への参加は、日本が米国の FIRST プログラムを国際協力の枠組みで支援していることを示す上で重要な意義を有し、米国側から謝意が示された。また、淡水資源の確保が大きな課題となり得る中南米諸国からは、SMR を活用した海水淡水化に関する講演に高い関心が寄せられた。本会議を通じて、ラテンアメリカおよびカリブ海諸国の原子力政策担当者等との有益な人的ネットワークを構築するとともに、今後の原子力協力の推進に向けた基盤を強化した。

米国務省次官補 Christopher Yeaw 氏の開会挨拶

AOTS 専門家の講演「SMR をもちいた海水淡水化、発電、水素製造」

アトーシャ原子力発電所　タービン建屋内での集合写真